

水産三者合同意見交換会

日 時 : 令和5年9月1日(金) 16:00~

場 所 : ANA クラウンプラザホテル熊本ニュースカイ

出席者 : 熊本県議会水産振興議員連盟 17名

熊本県執行部 16名

熊本県漁連役員・部会長 9名

水産業を取り巻く環境は、新型コロナウイルス流行から3年が経過し、ようやく終息に向かいつつ感染防止のため停滞した人と物流の復活に伴い経済活動も回復傾向にあり、水産物の流通にも回復の兆しがみられています。

しかしながら、昨年勃発したウクライナ侵略以降、円安も重なり燃油や漁業資材価格が暴騰し、加えて漁業就業者数の減少や高齢化が進み漁業生産量が減少するなど、依然として厳しい漁家経営が続いています。

このような中、昨年2月に報道された県産あさりの産地偽装に対しては、県、県漁連、漁協、漁業者が一体となり産地偽装を防ぐ流通・販売の仕組みづくりを構築し、水揚げの回復と関東・関西市場へも出荷が再開され数量も増大しています。

一方漁場では、昨年夏場の赤潮での被害、冬場は海苔が赤潮で色落ちし暴風による甚大な施設被害も出て37年ぶりの不作など、不安定な海況に苦慮しています。これらの被害に対しても県並びに県議会水産振興議員連盟の皆様方に多大な支援をいただきました。

このような現状に立ち、漁業を成長産業化し漁家経営を安定させるため、今年度も当漁連を組織する第1部会から第6部会までの各部会から現状を打開するための要望を取りまとめ熊本県並びに熊本県議会水産振興議員連盟に要望書として提出し、要望内容について建設的かつ活発で有意義な意見交換を行いました。

要望内容

- 暴風雨による施設被害を踏まえた施設共済の見直し及び栄養塩低下による色落ち発生への対策の充実
- 魚類養殖で赤潮被害を踏まえた赤潮の早期発見と被害対応策の充実
- 藻床板設置等による藻場回復活動への支援及び予算確保
- 漂流・漂着・海底ごみの回収・処分に必要な予算の確保
- 港内や航路の浚渫、沈下流木除去、堤防の修復と新設・延長
- 沖合港の新設
- 所有者不明放置船の迅速な処理
- 水産物荷捌き施設等の共同利用施設の多くが建設から30年以上を経過していることから、これらの施設の更新に向けた計画作成への支援

【主催者挨拶】



熊本県漁連 藤森会長

【来賓挨拶】



熊本県議会水産振興議員連盟 吉永会長



熊本県農林水産部 千田部長

【要望書提出】



熊本県議会水産振興議員連盟



熊本県知事（代理：千田部長）

【意見交換】



以上